

## 平成 30 年 9 月定例会 まちづくり対策特別委員会委員長報告

30 番 塩入 学でございます。

私から、まちづくり対策特別委員会の報告をいたします。

本委員会は、中心市街地活性化と均衡あるまちづくりのための公共交通について調査・研究を行うため、平成 29 年 9 月に再設置されました。

市民が住んで良かった、と思える安心して暮らせるまちを実現するために、これからの人口減少・高齢化に対応した持続可能なまちづくりが求められております。そのためには、誰もが公共交通を利用して日常生活に必要な商業、医療・福祉、教育・文化等が集積する拠点にアクセスできる集約型都市構造の形成が重要であり、中心市街地の活性化と公共交通のネットワークは、バランスある市の発展のために必要不可欠です。

本委員会では、中心市街地と公共交通の現状、中心市街地活性化プランや地域公共交通網形成計画に位置づけられた事業の進捗状況や課題、今後の展望について調査研究を重ねてまいりました。

この 1 年間を振り返り、本委員会において出されました意見の中から主な 3 項目について申し上げます。

初めに、中心市街地の活性化について、申し上げます。

市は平成 19 年 5 月から平成 29 年 3 月まで第一期及び第二期中心市街地活性化基本計画を策定し、善光寺周辺地区街なみ環境整備事業や中央通り歩行者優先道路化事業など中心市街地の魅力を高める施策を実施してきました。平成 29 年 10 月からは市の独自計画である中心市街地活性化プランを策定し、回遊性の向上やまちなかのにぎわい創出が期待されるところであります。

現在、県庁緑町線沿線地区整備事業、もんぜんぷら座の再整備を含めた新田町交差点周辺まちづくり構想、権堂地区再生計画、南石堂 A-1 地区優良建築物等整備事業などが進められておりますが、過去の計画の検証を行い、それらをまちづくりに反映させる取組が求められます。例えば、第二期中心市街地活性化基本計画では歩きたくなるまち、参加したくなるまち、の 2 指標が目標値を達成することができ

ませんでした。原因を十分検証し、目標値を達成するためにどのような施策が必要か、現行の活性化プランに生かしていく必要があります。そのためには、市民が中心市街地に何を求めているか、中心市街地に特化したアンケート等を活用して把握することが必要と思われます。観光客目線だけではなく、市民目線を重視した中心市街地となるためにも、まずは市民ニーズの把握と施策への反映を要望いたします。

また、長野県立大学が開学し、今後も2つの大学の看護学部が新設を予定されるなど学生数の増加が見込まれており、中心市街地では若い学生がまちづくりに参加する動きも出てまいりました。こうした若い世代の増加をきっかけに、学生が住みやすいまちづくりを進めるよう要望いたします。

次に、公共交通について、申し上げます。

市は平成27年度に策定した公共交通ビジョンのうち、今後5年以内に取り組む計画として、地域公共交通網形成計画を平成29年度に策定しました。公共交通の確保・維持、利用環境の整備、利用促進の取組を通して、公共交通ビジョンに掲げた、人をつなぎ、まちを育て、暮らしを守る公共交通の実現が期待されるところであります。

本年2月、市内で路線バス事業を運営する2社との意見交換会を開催し、バス事業を取り巻く現状と課題について、バス事業者から直接お話をお伺いしました。人手不足のため運行計画へ支障が生じかねない切実な状況であること、朝夕の通勤通学時間帯に対応するため乗務員の拘束時間が長くなり、バス車両も小型化を図ることが難しいこと、等の説明を受けました。

現在2社では大豆島保科温泉線や中心市街地循環バスぐるりん号を共同運行するほか、それぞれ生活路線の維持・確保や経費節減に取り組まれており、今年から新たな取組として互いの繁忙期運行を支え合い、人員をやりくりし合うことによって深刻化する人手不足への対応を始めました。こうした取組を更に進め、持続可能で市民にとって利便性の高い公共交通となることが期待されます。

公共交通ビジョンでは、新たな公共交通システムとしてBRT等の導入を検討するとあります。バス運転手の人手不足解消や公共交通への関心を高める点からも、導入の可否について検討するよう要望いたします。

また、本年5月に開催した市民と議会の意見交換会では、料金やダイヤ、運行

ルートなど公共交通に関する様々な御意見を頂きました。中でも、ノンステップバスの導入について利用者目線で多くの御意見を頂きました。

市内で運行されている路線バス車両、170台のうち、ノンステップバス車両の導入状況は、昨年度末現在で43.5パーセント、ワンステップバス車両を含めると87パーセントの車両が低床化できているとのことです。バス事業者においては、老朽化した車両から計画的に更新を行っているとのことですが、早期の100パーセント達成が望まれるところです。

また、バス停における段差が解消されるような道路改良などハード面の整備も求められます。誰もが利用しやすい公共交通の実現に向けて、利用者及び沿線地区住民の意見をお聴きし、施策に反映する取組を進めるよう要望いたします。

最後に、城山公園の整備について、申し上げます。

現在、公園内に立地する県立信濃美術館の全面改築に合わせて、一体的に整備する城山公園整備事業が2020年度を目標に進められております。市内で最も古い公園として、シンボリックな役目を果たす噴水を公園の中心に配置し、善光寺東公園と連続した歩行空間の整備によって、回遊性向上と美術館エリアを核とした公園のにぎわいが期待されるところであります。

また、施設の老朽化が進む城山公園一帯の再整備構想については、再整備検討委員会を中心に基本構想を策定中とのこととあります。これからも多くの市民に親しまれる公園となるよう、既存施設の在り方や公園の将来像については、慎重かつ多角的な視点での検討が求められます。

平成29年9月に実施した市民アンケートでは、城山公園の良いところとして、自然豊かなところや子供が楽しめる場所が高い評価を得ており、将来像についても子供が楽しめる場所を求める意見が多く寄せられております。城山動物園や少年科学センターは中核施設ですが、老朽化や駐車場不足などの課題を抱えています。城山公園一帯の再整備に当たっては、これらの市民ニーズや課題について十分検討を行った上で、都市の貴重な緑地空間の保全を図り、広域的な文化・芸術・レクリエーション・防災の拠点として整備を行うとともに、城山公園一帯の魅力を発信することを要望いたします。

中心市街地の活性化と持続可能な公共交通は、本市だけではなく全国的な課題となっており、解決には既存概念にとらわれない柔軟な発想が求められています。本年1月に視察で訪れた岐阜県大垣市では、市内にある大学の学生が商店街でイベントを企画したり市街地の情報の発信を積極的に行うなど、中心市街地活性化に取り組むことで、既存の商店街にもよい刺激を与え、まちが活性化している様子を学びました。本市も長野県立大学等の開学を機に若い学生の声をまちづくりに反映する仕組みが求められます。

人口減少、少子高齢化等の大きな社会構造の変革期にあって、中心市街地の活性化、公共交通の対応策は持続可能で均衡あるまちづくりの重要な課題であります。本委員会の要望を踏まえ、市民ニーズを把握し反映するための具体的取組をされますよう申し上げまして、報告といたします。